

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		コベルプラス寝屋川教室					公表日	2024年2月1日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5	0				
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5	0		現在は適切であるが、明らかに不足していた時期もあった為、不足の際の補充に関し、工夫（他教室に応援の要請）が必要。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	4	1	右記に記載の通り、12月に申請。12/20に修理業者が来所。鍵の部分は直っている。しかし、リール部の部品不足の為、年明け早々に追加で修理予定。 →修理完了。	現在、事務所の出入り口と倉庫の出入り口の扉2枚鍵の部分を修理するため調整中。 →修理完了。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5	0				
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5	0				
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	5	0	定期的に会議・打ち合わせをする等目標を持って振り返りをし、日々職員間で蜜にやり取りを行っている。	・多くの職員が参画しやすいようにPDCAサイクルについて全体研修として触れる必要があるのではないか。 ・教室開校時にコベル東京本部主導の研修があり、管理者が業務改善の為に使用するにとどまっている。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	0				
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	0				
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	4	1		第三者評価実施なし		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5	0	年々、社内の研修の種類も回数も豊富になっている。必要な職員が受けられるよう、調整しながら参加している。			
適切な否	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5	0				
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	5	0				
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5	0				
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5	0				
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5	0				
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5	0				

支援の提供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5	0		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5	0	月によって使用する教材（玩具）を変更し、多くの指導員を順番に担当するなどし、様々な方法で支援を提供できるようにしている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせで児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	5	0		
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5	0		
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5	0		
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5	0		
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5	0		
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	4	1	サービス担当者会議が行われる際、是非とも参加したい旨、相談支援専門には伝えており、今後開催時には参加予定。	自身が配属になって以降、他機関の参加するサービス担当者会議は行われていない。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5	0	保護者様からの要望を受け、専門職との面談に同席。それを受け、日々の療育に反映している。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5	0	園等に訪問し、情報を共有。連携して支援している。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	2	3	年長児の保護者様には小学校進学の際、必要があれば情報を共有する旨、伝えている。	・場合によっては情報共有を図ることもあるが、現在利用中のお子様の中にはいない。 ・（お子様が移行のタイミングの際、配属されておらず不明。）
	28	(28～30は、センターのみ回答)				
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外泊研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答)	2	3	2025年1月、寝屋川市内の障がい者支援事業所の集まりに参加申し込み済。定期的な研修もあり、やり取りの機会は設けることが出来ている。	現在そのような体制は組んでいない。寝屋川教室に配属され間もないが、今後はどんどん地域の関係機関と連携し、必要時は左記支援センターとも連携してお子さまを支えていく。
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	0	5	毎月月末実施の「コミュニケーショントレーニング クラス」を行い、当方利用のお子様同士の交流は図っている。	「幼稚園・保育所等のお子様」と「当方利用のお子様」同士の交流は設定していない。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5	0	電話などでのやり取りはもちろん、来所時に同行の保護者と直接お話しをし、日々のお子様・ご家庭に寄り添えるようにしている。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5	0	実施中。複数の保護者とのやり取り以外にも希望者には個別で実施している。	
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5	0	契約時に加え、個別支援計画書を保護者様と作成の際、必要項目を取り上げて説明している。	

保 護 者 へ の 説 明 等	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5	0	アセスメントを行い、ご要望や様子を聞き取りをし、作成・説明している。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	5	0	同上	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5	0	来所に同行の保護者とお話しはもちろん、LINEによるご相談にも職員全員で対応している。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	5	0	2024年11月より「ペアレントトレーニング」を毎月月末に行っている。出来るだけ複数人で行うようにし、保護者様同士の交流も兼ねている。	
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5	0	近隣の駐車場をよりご利用しやすいよう、駐車料金の一部として「割引優待券」をお渡ししている(2025年1月より)。	駐車場がない。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5	0	LINEによるメッセージの一斉送信で全体に案内を流したり、来所時にはお手紙を配布するなどしている。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5	0	留意している。必要時のご説明の上、了承を得、同意書をいただいている。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5	0	状況に合わせ、端的に伝えたり、簡単な言葉（日本語・英語）を使用したり、お手紙にしてふりがなを振るなどしている。	
非 常 時 等 の 対 応	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	4	1	2024年10月以降、寝屋川市内を中心に、地域で開催されている集まりに参加。防災に関することはベアトレ時、保護者様にも情報を共有している。	支援内容について学びを得るためはもちろん、社会資源としても横の繋がりを大切に、自立支援協議会や障がい児支援部会等の開催時には今後参加していく。
	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5	0	2024年11月、保護者・お子様も一緒に避難訓練を実施。その際、防災に関するお話しも行っている。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5	0	行っている。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	5	0	確認している。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5	0	現在利用のお子様の中で対応が必要な方がいらっしゃらないが、今後必要に応じて対応していく。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5	0	行っている。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5	0	避難訓練の際、お伝えしている。また、教室内に避難経路を掲示している。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5	0	行っている。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5	0	定期的に会議を行い、職員間で身体拘束に対する理解を深め、情報共有している。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	5	0	上記記載に加え、保護者様には契約時に説明している。今後必要時は保護者様にその都度確認していく。	